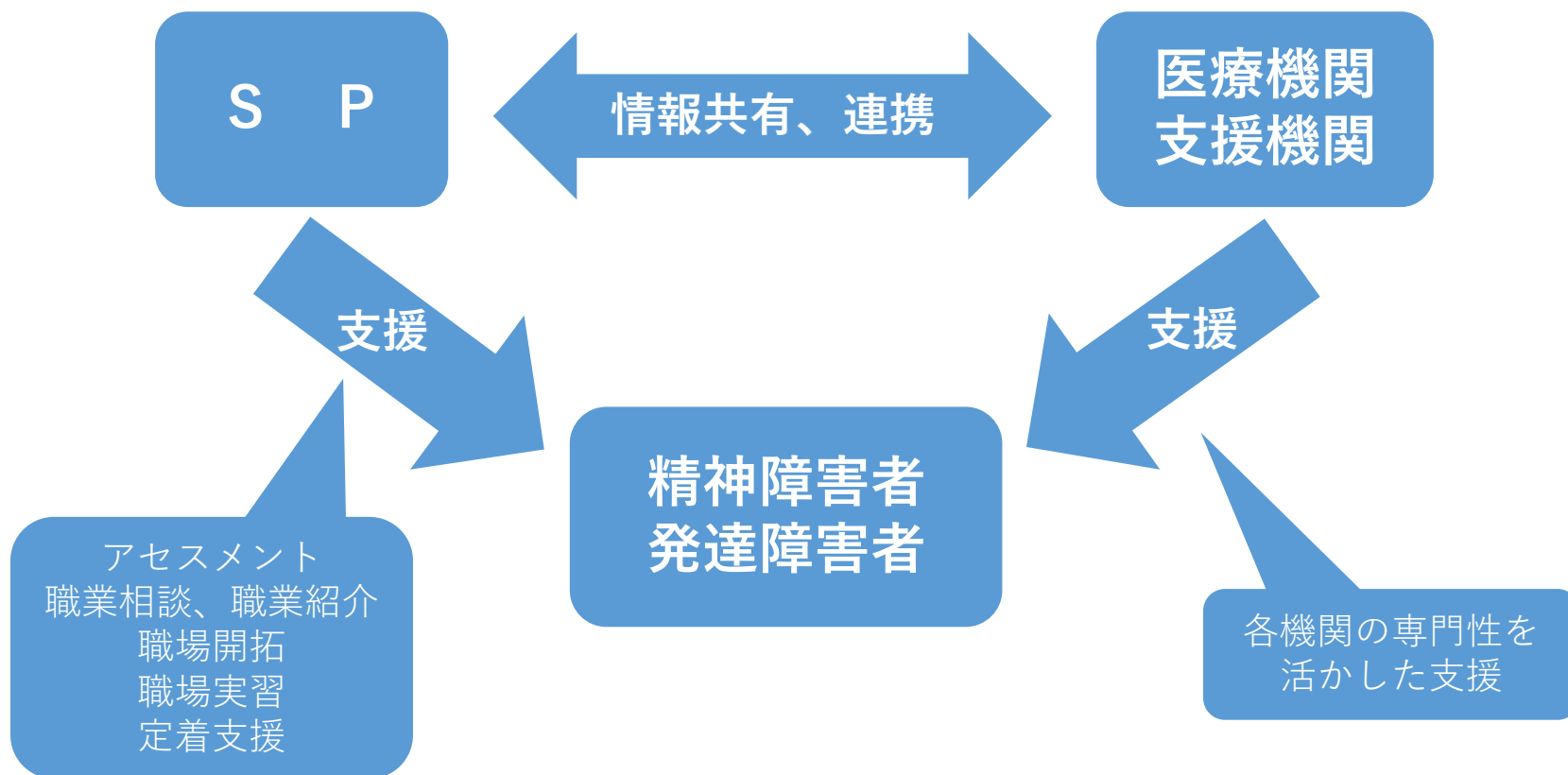


# 家族との関係に着目した発達障害者に対する就労支援 ～家族に対するアプローチを含めた包括的な支援について～

- 鈴木 靖子（宇都宮公共職業安定所 精神・発達障害者雇用サポーター）
- 金田 則子（宇都宮公共職業安定所）

## 1 はじめに

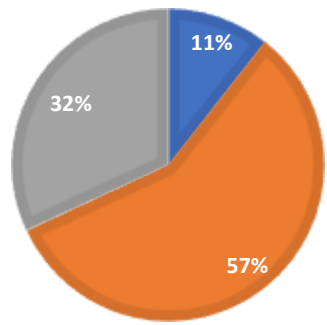
### ハローワークにおける精神・発達障害者雇用サポーター（SP）の役割



## 2 発達障害者と家族関係についてのアンケート調査（1）

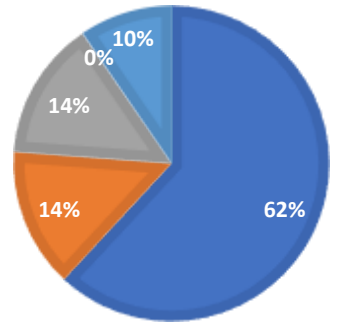
家族関係について

■ とても良い   ■ まあまあ良い   ■ 良くない(悪い)



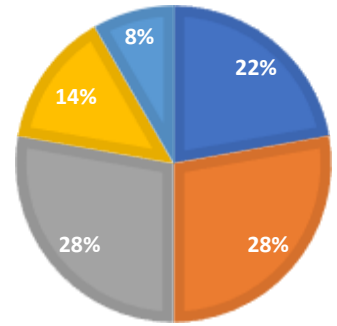
いつから

■ 幼少時から   ■ 大人になってから  
■ 診断されてから   ■ 休職・無職になってから  
■ その他



家族関係が良くない(悪い)と感じる理由

■ 障害に理解がない   ■ 態度(批判、威圧、無視等)  
■ 過剰な関わり   ■ 兄弟・姉妹との差別  
■ その他

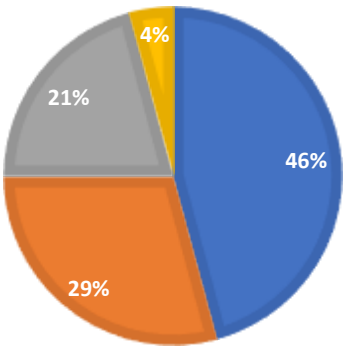


当所が医療機関Xの協力を  
得て実施したアンケート

## 2 発達障害者と家族関係についてのアンケート調査（2）

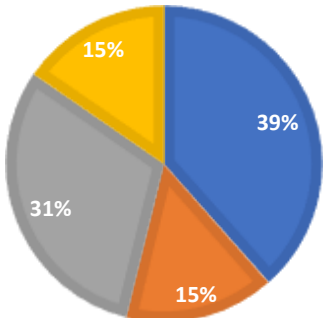
就職の相談をしやすいか

■ はい ■ いいえ ■ 相談しようと思わない ■ その他



相談しにくい理由

■ 相談しても聞いてもらえない ■ 親の考えを押し付けられる  
■ 自分の気持ちを伝えられない ■ その他



当所が医療機関Xの協力を  
得て実施したアンケート

**アンケート結果は、当事者の就労支援において、  
家族関係を考慮する必要性を示している。**

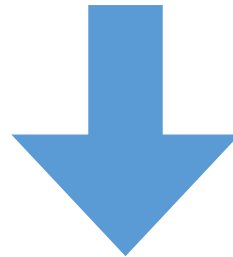
### 3 ケース概要と初期経緯

Aさん（30歳代、男性）

○障害：自閉スペクトラム（ASD）

○家族構成：両親と同居、独り子

○状況：専修学校卒業後、障害クローズで正社員就職するも、仕事に適応できず落ち込む。周囲からは「気持ちの問題」、「もっと頑張れ」と言われさらに自信を喪失。親には「叱られる」、「見捨てられる」との思いからこの状況を言えず。やがて**身体症状や希死念慮が出現するようになった。**



**SP：危機介入の必要性を感じ、母親に連絡のうえ  
医療機関へと繋いだ**

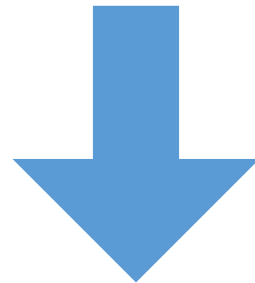
## 4 親へのアプローチの必要性

Aさんのメンタル不調、休職・離職に対する親の言動

- ・「怠けている」
- ・「粗大ゴミ」
- ・「働かないのなら出ていけ」

ASDの診断に対し  
「うまくやれないこと  
への言い訳だ」

**親の理解不足が状態悪化の要因**



**Aさんの生活・就労の安定のためには親へのアプローチも必要**

## 5 親に対するAさんの課題と就労に対する影響

### Aさんから見た親との関係性における課題

- ・ 親の価値観を最優先して自己決定できない
- ・ 失敗 = 親の期待を裏切ること（ゆがんだ認知）
- ・ 家庭が安心できる環境になっていない
- ・ 自分の気持ちや考えを伝えることが苦手



A  
S  
D  
の  
特  
性

SPとの面談、医療  
機関との情報共有、  
により判明



**親に本音を伝えることができない**

## 6 支援経過とAさん及び両親の変化（1）

### 親の意見を最優先に行動する時期

#### ●Aさん

親の意向に従い休職→復職→再休職→転職  
自分の思いを親に言えず体調悪化

・家に居場所がない  
・本当は家で休養したい

#### ●親

療養の必要性に理解示さず、主治医の意見にも反論

#### ●SPの支援

親：面談し仕事のミスマッチが心身不調の一要因であること、及び  
療養の必要性を説明するも理解得られず

連携：障害者職業センターによる職業評価実施、結果の説明（**母親出席**）  
医療機関にてケース会議を実施（**両親出席**）



**母親は徐々に状況を理解、父親は変わらず**



## 6 支援経過とAさん及び両親の変化（2）

### 自己主張できるようになった時期

#### ●Aさん

退職→療養→デイケア利用

心身とも徐々に安定

- ・家にいやすくなった
- ・元気になってきたのに家にいて申し訳ない
- ・また失敗するのが怖くて働けない

#### ●親

母親：療養の必要性に理解を示す

父親：以前ほど批判しなくなったものの「いつ働くのか」との発言

#### ●SPの支援

Aさん：自分の気持ちや考えを自ら親に伝えられるよう支援  
デイケア利用の提案

連携：医療機関にてケース会議を実施し（**両親出席**）、スモールステップの重要性とデイケア利用の必要性について理解を求める

→ 父親は「働くべき」と反論するも、**Aさんは両親に  
デイケアを利用したいと主張**

## 6 支援経過とAさん及び両親の変化（3）

### 自ら意思決定し自立する時期

#### ●Aさん

B型事業所の利用を経てA型事業所の利用を開始  
自分の意思でグループホームに入居（親からの自立）  
自発的行動ができるようになり、心身ともに安定

母親との関係に  
安心感

#### ●親

母親：Aさんを支援

A型事業所やグループホームの見学に同行

父親：「働かないなら出ていけ」との発言

#### ●SPの支援

Aさん：自己決定に向けた相談支援、後押し。

連携：障害者就業・生活支援センターと情報共有（生活面も含めサポート）  
医療機関と就労支援の方向性に関し意見交換



**SPから親へのアプローチの必要性が減少。**

## 7 まとめ

### 変化

- ・ Aさん：自己主張、自己決定ができるよう変化
- ・ 母親：Aさんを理解し支援するよう変化
- ・ 父親：Aさんの状態をある程度理解できるに至る

### 成功した理由

- ・ Aさんの頑張り：「変わりたい」という強い思い
- ・ 親の姿勢：SPの介入を拒否しなかった
- ・ タイミング：Aさんの休職という「転機」を捉えての介入
- ・ 状況に応じた連携：  
医療機関、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター